

國語の習熟を語る



談　　對

皇奉國民動員部長

林　　茂　生　氏

森田　俊介氏
總督府文教局長

適齡青年は非凡な努力を

記者 待望の徵兵検査は、十五日から、全島一せいに舉行されました。豫備検査が行はれました結果、適齡青年の中に、國語未習熟者が相當にあつたさうであります。これではせつかくの、徵兵制實施に一つの汚點を印するものであります。しかし、入隊後、娘べならぬ苦勞と努力を重ねなければならぬこと、思ひます。つまましては、今回、この對談を願つたわけであります。

生活のあらゆる面を捉へて見て

も、他との關聯といふものが非

常に薄い。だから臺灣語を使つ

てゐる人に、國語常用といふこ

とは非常にむづかしい譯です。

島民の生活面の他との關聯が非

常に薄いから、習熟の必要性を感ずることが極めて稀薄なんですか。

臺當時既にしかり、現在においても、生活の大部分は農業依存です。農民の生活といふものは、元來極めて保守的なものであります。生活面が非常に小さい。各部落毎に一體をなし、他と餘り交通せずとも、その日が遅れるといふやうな體形において、臺灣の農業は發達して来てゐる。従つてさういふ生業の面から見て、國語を奮然しなけれ

ばならないといふ氣運が、何といふか、非常に旺盛に醸成される狀態ではなかつた。これが第二。第三には、社會の先駆者、人の教養を高める社會教育に挺身する先駆者といふものが容易に出ない狀態にある。あらゆる鶴といふ人がない。これらが本質的に、臺灣の草深い田舎の人間まで引き立て、國語習熟を燃さしめることのなかつた根本的な原因と見なければならぬ。かくて、加へて、第四に、官においては手のつけようがない。かつたから、領臺以來主として

なぜ未習熟者が多いか

臺當時既にしかり、現在においても、生活の大部分は農業依存によつて、これが高められてゆくやうにならなければ、本當の勢ひといふものが出来ない。具體的に内地に例へていへば、内地では功成名遂たといふ人が、最後に何をするかといふと、自分の郷里に歸つて青年の指導をやつてゐる。或ひは官界において、或ひは實業界において相

當名をなした人の晩年の仕事は、己れの郷里の世話をする。之がその人の餘生を送る一つの途になつてゐる。臺灣にはその類の人がない。絶無といつて可なりである。その部落生部を引きすつてゆかうといふ人が容易に見つからない。假りにあつても大きな力を喪つた人がないのだ。いはゆる群衆中の一人またも引き立て、國語習熟を燃さしめることのなかつた

教育といふものは學校教育を本體にして、社會面全體に、即ち社會教育といふ面についても呼びかけてゐる。老若男女を問はず呼びかけの如きは、官の施設も立遍れであつたが、併はなかつた。このことが島民全體に國語熱を燃さしめることが出来なかつた原因だと田原がいふのです。

實生活

林氏 今はれた四つの點について、私は全面的に全く感です。實生活に即しなければなりません。言語の進歩發達といふことは出来ない。それを裏書する一例として、臺灣でろくな國語の教育を受けなかつた私は、明治四十一年始めて内地に行つて、僅か一箇年の間ですが、四十一年の純粹な國語を話す連中のうちに、學寮に入つてゐたために、ここに、學寮に入つてゐたために、ここに、國語能力といふのは、これは臺灣にあつてはやはりひはその當時の情勢では五六年、十箇年間でも習得出来ないやうなものを短期間で習得

の國語の習熟は出来ないと思ひます。かういふことの出来ない、
例へば臺灣の農村、農村といふ
ところは、極めて限られた範
圍内においてしか生活してゐる
い。そこには、國語の必要とい
ふものは少しもない。従つて、
生活から離れた國語を、假りに
習熟しようとするが然があり、あ
るひは國民的觀念があつたとし
ても、自ら出来ないやうな状態
に置かれてゐる。かう私に思つ
てなります。

園内においてしか生活してゐない。そこには、國語の必要といふものは少しもない。従つて、生活から離れた國語を、假りに習熟しようとし、ふ然があり、あるひは國民的觀念があつたとしても、自ら出来ないやうな狀態に置かれてゐる。かう私も思つてをります。

ふもののは島民に國語を植ゑつけ
ることを、忘れて來たか、どう
かといふ點なのです。この點に
ついていへば、國語教育といふ
ものは學校とし、ふ施設の中にお
いてやる、これが中心になつて
從來やつて來たのです。こゝ
で思ひ出すのは、領臺灣時、
樺山總督が初代學務部長に伊澤
修二先生を通じて來られた。伊
澤先生を連れて來られるやうに
なつたのは、明治二十八年、樺
山總督が廣島の大本營で、伊澤
先生に會はれた。先生は帝國教
育會の代表として、樺山總督に
お會ひになり、「貴方は臺灣の新
附の民の教育をどうお考へにな
るか」といふことを尋ねて、
逆に總督から意見を求められ
一私は帝國教育會を代表して申
上げるが、臺灣におけるこの新
附の民の教育といふものは、國
語を通して日本の國體、日本精
神を継付けてゆくことです。た
とへ困難であらうとも、これは
忘れてはならない。内地の中等
學校で、英語やドイツ語を、い
はゆる言葉として教へてある、

これと同じやうに、單に日本語を使
ひますか、實際うる、正面から國語を
使ふべきであるといふ意味で取扱は
れるならば、大變な間違ひであ
る。臺灣における國語教育は、
あくまでも國語を通して、日本人
の感情、情操、信念を高めて
ゆくことを強烈に終始忘れず
にやつて行かなければならぬ
い。これが帝國教育會の總意を
代表しての進言である」といふこと
を申されたといふ話で、「そ
れでは貴方に頼む」といふこと
になつたのでせう。初代の學務
部長となられて學務部を創設した
られ、芝山農業堂を始めらるゝ
譯です。この伊澤先生の精神は、
長く教育界に、少くとも臺灣に
おける國語教育に從事したもの
の間に傳へられ、今日も受継
がれてゐる譯です。ですから、
國語を通して、島民を立派なコ
本人として陶冶して行かなければ
ばならないといふ信念は、非常
に旺盛なものであつたし、領臺灣
當時から今日まで、逞しく研
究するのです。ただ何と、
ひますか、實際うる、正面から國語を
使ふべきであるといふ意味で取扱は
れてゐるのです。

語理解者の数が猛烈に上昇しなかつた。だからといって、國語普及に対する懲りといふものが低調であったといふやうに思はれてはならないわけです。そのことを誤解して貰つてはならぬと思ふ。それと、もう一つ面白い挿話がある。伊澤先生は構山總督に隨いて臺南に行かれた。皇軍が臺南に入城し、福は臺南から西門に逃げた。この入城の翌日に先生は臺南に入つてをやられる。そして、當時、神學校を經營し、臺灣の教育に経験をつんでをるトーマス・バクレイといふ男に會はれたのです。バクレイは「私は臺灣語を口にじかに英語を教へてみたが、さつぱり成績があがらない。だからこのごろは、臺灣語をローマ字で書いて、教へたりしてゐる。臺灣語をこちらが覚えて、臺灣語で教育をしてゐる。新しい領士においては、その土語をどう中心にしてやるよりほかに、手はありませんぞ」といつた。その時に先生は「貴方は實際の經験者だが、私は、何といつても、國語を通しての教育といふもの

に數年をもつてせよ。實績^{じきせき}にて相見えん」といふことをもつてをられる。その烈々たる意念といふものは、如何に教育^{きぎょう}されるかといふ點には、國語習熟者の數が、思ひより高まつてゐないから、皆でなかつただらうといふ風に思はれては困ると思ふのです。

國語生活の
霧園氣釀成

を棄てる譯にはいかない。誰すに數年をもつてよ。實績をもつて相見えん」といふことを、つてをられる。その烈々たる信念といふものは、如何に教育に、燃んなる意欲と意氣を見せて、られたかといふ證左であります。國語習熟者の數が、思つたより高まつてゐないから、當時の人達の意氣込も、大したものでなかつただらうといふ風にいはれては困ると思ふのです。

森田局長 要するに、國語を通じて立派な日本人となる鍊成

來容易に扉を開くことが出来なかつた。一般民衆生活の中に、國語生活を通じての日本精神が生れるやうになつた。昭和の初め頃の官の施設した國語講習所等で、紀元二千六百年までに、とにかく五十分は國語の解るものにしようといふ指標を挙げた。かういふ風にそれを目標に進んで来て、立派な社會全體を挙げて、紀元二千六百年までに五十分にしようといふ

ひとり適齡青年のみではなしに、從來やつて來た國語習熟に對する各般の努力が、これによつて片手落ちになつたり、どこか缺けたりすることは、やがて大本を亂す原因になる、これは忘れない、やうにしなければならない。適齡青年の國語習熟をあまり強烈にいふために、他の年寄はどうでもよい、放つたらかしておけ、といふことはわかれわれこの問題を受持つてゐる。

感度といふものは、折角努力しても効果が薄い。これは兩方相關的です。例へば家に歸つた時、に、教はつた通りに「只今」といふ場合に、家にゐるもののが、「お前はそんなことをいつて生氣だ」と臺灣語でいふ場合と、或ひは片言でもいゝから「只今」に對して「お歸り」といふ場合、その青年の教はつた「只今」に對して「正反對の影響を及ぼす、とかう思ふのであります。そこ

陸軍忠頑兵制度、海軍忠頑兵制度並に今度の徵兵制の適用等に
よつて、わけても國語の習熟の
必要性といふものは、適齢青年
に特に一段と強烈に、その必要
が叫ばれてをりますし、また認
められてゐる。従つて、適齢青年
の國語習熟といふ問題を、最も
急速にやり遂げなければならぬ
いが、同時に、國語習熟問題は、
林氏 しかも、この大本で
ね。つまり國語の全面的普及
いふものは、やがて適齢青年
國語の能力の深度を深めるわ
です。反対に、社會がこれら
過程に無理解である場合には、
適齢青年の國語に対する深度

幸ひと思ふのですが、本島人の國語の習熟に關して島内の内地人一般の方々が、進んでこれに協力してやうといふ傾向が、今まで、私の見たところでは、薄かつたやうに思はれるのです。これは申すまでもなく、純粹の國語を話す人の耳に入る未熟な、半解の國語は、耳障りになり、辛抱して聞いてやらなければ

社会全體を捉へて、紀元二千三百六十年までに五十分にしようと、ふやうな一つの目標がたてられるやうになつたといふことが、累積された永年の努力の積穫であるといはなければならぬ。現在ではさらに一層強烈な勢ひをもつて、施設の質的及量的の増加を策してなります。

かしておけ、といふことはわれわれこの問題を受持つてゐる者としては困る。これでは、一部の國語熱は上のかも知れないが、やがて全體を崩すことになるから、今、林さんのおつしやつた、側面から國語の問題を解決すべく、國語の生活といふものとを島民に植ゑ付けていかなければなりません。これは私の邪推であれば、對して正反対の影響を及ぼす、とかう思ふのであります。そこに、いはゆる社會の風雲闘争といふものの大事な點があるので、しかし、國語普及が思はずくゆかなかつた、これについては、内地人の方にも考へていたどきたい點があると思ふのです。これは私の邪推であれば

度といふものは、折角努力しても効果が薄い。これは兩方相關的です。例へば家に歸つた時、はいふ場合に、家にあるものが、「お前はそんなことをいつて生氣だ」と臺灣語でいふ場合と、或ひは「言葉でもいいから只今」に對して「お歸り」といふ場合、その青年の教はつた「只今」に

ればならない、かういふ國語を語る人を相手にしたくないのは、人情でせう。人情でせうけれども、國語を通じて、臺灣の農民鍊成が出来ると、いふ大目的に向つて、内地人の先輩なり、あるひはお隣りの人、あるひは友人といふ人が、進んで、まゝ、我々も直して、聞いて上げよう、そして直して上げよう」といふ氣持でやつて下さるなら、本島人の國語は、一層進化する、これによつて、いはゆる皇民鍊成の力と、いふものも自ら生ずる、と私は思ひます、内地人の方が、かういふところに馴染みられて、一役を買つて出でたとかなければ、側面的な國語の雰囲氣の醸成といふものは、なかなか出来るものぢやないと私はかう思ふのであります。

いとも淡々と譯されねばならない。ところが、實際はさうは行つてゐない。何といひますか、いつも伴を着てやつてゐるのですね。これでは國語問題にして、觸れ合ふところのものがない。早い話が、偉い人の大きな邸宅に行つて、「君、構はんから裸になつて、腰を出してくれ」といはれても、出せるものぢやない。これと同じで、兩方が淡々として、觸れ合ふやうに、指導しますと、私は新竹の内務部長をしてゐる時に、ある青年鍊成所みたいなものを設けたことがあります。三月の節句の時に雄飾りをして、白酒を供へたりお餅や、何やらを供へたりしてそこへ八十人ばかりの青年を招んで、内地ではかういふ祭りをするといふことをいつたので、が、かういふやうに、此方の風習を如實に見せて上げたり、また同時に向ふの生活に此方が入つてゆくといふことは、私のやつたのはぎこちないのですが、いとも淡々と行はれなければならない。ところが、實際はさうは行つてゐない。何といひますか、いつも伴を着てやつてゐるのですね。これでは國語問題にして、觸れ合ふところのものがな

してゆかねばならないものなのですが、これはなかなか、容易に望まれぬことではせう。それよりもまづ、今の臺灣の、主として役所にゐる官吏が、殊にからいふ國語習熟の問題を己れの任務にしてゐる者が、もつと意欲を燃やして、國語問題に突入むことは第一義でせう。さらに進んで、今林さんがおつしやるやうにお互ひに淡々として、生活に觸れ合ふやうになれば、これは上々でせう、しかし、それより先に、學校職員、或ひは警察官といふやうな人が、國語問題に對する意欲を、もつと熾然に燃して貰ひたいといふことが第一義でせうね。

林氏、幸ひに、そのいとも淡淡たる交際する機會が、この時局の影響でダン^{ダン}／＼多くなつて來ましたね。

森田局長、企らんだものではだめですね。

林氏、例へば奉公班のやうなものですね、また極く多數の本島人の中に、一軒二軒と内地人の家庭があると、これが出来ますね。とにかく、隣組の中に、雅純な國語を話す一家があつて、しかもその一家と奉公班同志で、場合によると職友愛、同胞愛、運命を共にするといふことは、今日では起り得りますよ、毎日毎日接觸してゆくうちにさういふものが起る。作爲的でなく、自然にさういふものが形成されてゆく。成形されたゆくうちに、私は本當の雅純な國語が出来ると思ふのです。殊に本島人にとつては國語といふものはむつかしいものです。何故かといふと、本島語にないいろいろの形式がある、男には男の言葉があり、女には女の特別の形式を備へた言葉もありますし、殊に相手によつては敬語を使はなければならない、諱用語を使はなければならぬといふ場合にはなければならないといふ場合に、理窟は學校で教はつても、なかなか簡単に直ぐ出来るものではない。これは始終自分の相手から教はり、相手によつて自分で練習の機會を得てやつて来るしかなければならぬ。まあ現在ならば、少くとも奉公班を基礎とする一般大衆の交際の機會が、だんだん多くなつて來るところ

やつて下さるなら、本島人の國語は、一層進化する、これによつて、いはゆる島民鍊成の力としまして、いふものも自ら生ずる、と私は思ひます、内地人の方が、かういふところに鑑みられて、一役買つて出ていたゞかなければ、側面的な國語の雰囲氣の醸成といふものは、なかなか出来るものぢやないと私はかう思ふのであります。

すね。これでは國語問題にして
も、觸れ合ふところのものがな
い。早い話が、偉い人の大きさ
邸宅てきたくに行つて、「君、構はんか
ら裸はだかになつて、膀ぼう胱こうを出してくれば
といはれても、出せるものだや
ない」これと同じで兩方が淡々
として、觸れ合ふやうに、指導

森田局長 企らんだものでは
ダメですね。林氏 例へば奉公班のやうな
ものですね、また極く多數の本
島人の中に、一軒二軒と内地人
の家庭があると、これが出来ま
すね。とにかく、隣組の中に、

觸れ合ふやうになれば、これは
上々でせう。しかし、それより
先に、學校職員、或ひは警察官
といふやうな人が、國語問題を
對する意欲をもつて燃んに燃
して貰ひたいといふことが第一
義でせうね。

なかなか容易に直ぐ出来るものぢやない、これは始終自分の手から教はり、相手によつて自分が練習の機會を得てやつて行かなければならぬ。まあ現在のならば、少くとも奉公班を基礎とする一般大衆の交際の機会が、だんだん多くなつて來る。

が日本文化の根柢である。島人にとっては國語といふものはむづかしいものです。何故かといふと、本島語にないいろいろの形式がある、男には男の言葉があり、女には女の特別の形式を備へた言葉もありますし、殊に相手によつては「敬語」を使はなければならない、謙遜語を使はなければならないといふ場合に、理窟は學校で教はつても、

適齡青年へ の希望事項

が、兵隊に入ると、最初の期間、本人も困るし、また同じ隊の兵隊さんが聞いても、時々不愉快な感が起らだらうと思ふのです。が、一旦兵隊さんの仲間に入って、ある期間を経れば、自然に、特に農民に放つておけば接するとの出来なしやうな機会を得て、國語に習熟することが出来ると想ひます。

適齢青年への希望事項

ればならないとか、一般青年た
けでなしに、相當年齢の人に
も國語熟練を起すやうにしな
ければならないとか、一般的な
問題について申上げましたが、
若し現下の青年諸君が之を理由
にして國語習熟をぶらすと
いふやうなことがあつてはなら
んと思ひます。これは問題が運
ふので、現實に今の適齡青年と
いふものは國家の干城として、
今直ぐ眼の前に重き任務を背負
つて立なければならぬので、
すから如何なる困難な事情があ
るとしても、國家の干城として
重き任務を果すために遅く無二
一應の必要な國語に、習熟しな
ければならないといふ熱意を持
つて、それだけの精神努力をしな
ければならない。それも、精進
努力をするといふ心持を持つて
ゐるだけでは、國語といふもの
は決して習熟するものではな
い。これには、それだけの骨折
と、それだけの努力を現実に現
はさなければならない。具體的
にいふならば、夜更ける時間を割
いても、烈々たる氣魄

いても、短縮してもやらな
ければ、國語の習熟といふ問題
を解決することは出来ないとい
ふことを、しつかり頭に入れな
ければならない。吉田松陰にし
間題について申上げましたが、
ても久坂文瑞にしても、明治維
新の志士といはれる人は、當り
前のことを當り前にやつたよ
くはあの勵はなし遂げられた
ものぢやない。人並でないこと
をしたからあれだけのことが出
來た譯です。臺灣の青年諸君は
内地における青年諸君に、一步
も二歩も効つてゐる。内地人青
年が八九歳間寝るならば、現實に
七時間寝て、努力しなければ、
問題は解決しない、といふこ
とを自ら知つて、我が身を削つ
ても、やううと努力し、これ
を深く認識して、やつて貰ふほ
か途はない。

指導者の方においても、
臺灣の青年については、何もかも
思つた通り出来るものぢやな
い。ですから、眼で學ばせるよ
りも、耳で聞き取らせることが
さしづめ、大いに必要だと思ひ
ます、殊に軍隊では、私は軍
隊生活をしたことはないからよ
く判りませんけれども、聞き取り
に認識して、身を削つてやると
いふ氣魄で、努力していただき
いものです。皇民奉公會の國語
運動もこれよりほかに途はあり
ません。新しい手といふものは
ありません。

森田局長 指導者についても
ます、かりそめにも、一つの命
を失つてやる、烈々たる氣魄
をもつてやるといふことは冷た
た傳達する様なことがあつて
は申譯しない。從來ある言葉を學
ぶのに、眼で言葉を學ぶといふ
事が多い。それよりは今日の
場合には、さしづめ、耳、口を
してつて、一際優れた成果を
挙げようといふのは、飛んでも
ない者へ違ひです。並々ならぬ
ことをしなければさういふ成果
を挙げ得るものぢやない。これ
は青年諸君方に指導者たる人達
が、深く肝に銘じて覚えて置い
て貢ひたいことです。

森田局長 指導者の方において相當
教育を受けた指導者を、皇民奉
公會では、地方の推進員にして
おられます。この人達の努力が
大いに便はせるやうな訓練の仕
方が、必要ぢやなからうかと思
つてあります。それから指導者
責任者、本島において相當
教育を受けた指導者を、皇民奉
公會では、地方の推進員にして
おられます。この人達の努力が
足りない。自分もそのうちの一
人ですが、身を削つてやるとい
ふやうな指導者の氣魄が足りな
い。これは今のお話通りです
が、今は一刻も緩慢な指導は許
されないといふ状態ですから、
青年に對する自分の責任を大い
に認識して、身を削つてやると
いうふものも考へなければな
らない。からまた指導者としては、何と
やつて、腰力人がついて来る
やうに親切な指導をやる。それ
からまた指導者としては、何と
いひますか、平易な手引ですね、
さういふものも考へなければな
らない。から思つて、官として
は、ごく大雑把なものですが、
かい指導の一助にもなれかしと
思つての事です。このことは、
よく頭に入れて指導して頂きた
いと思ひます。

すべき諸點

指導者の心

森田局長 また、これを導び
く側においても、烈々たる氣魄

指導者であると思ひ
ます、かりそめにも、一つの命
を失つてやる、烈々たる氣魄

をもつてやるといふことは冷た
い空氣の下にやるといふ意味
では決してない。烈々とやる、
身を削つてやるといふと、何か
厳しくいかめしく、どなりつけ
ることのやうな響きを傳へ勝ち
ですが、烈々とやること、身を
削つてやること同時に、暖か
く指導してやらなければなら
ない。暖かくして來易いやうに
指導してやらなければなら
ない。暖かくして來易いやうに
指導してやること、烈々とやる
ことと暖かくやるといふこと
は、これは自ら立ちするやうに
やらなければならぬ。烈々と
やつて、腰力人がついて来る
やうに親切な指導をやる。それ
からまた指導者としては、何と
いひますか、平易な手引ですね、
さういふものも考へなければな
らない。から思つて、官として
は、ごく大雑把なものですが、
かい指導の一助にもなれかしと
思つての事です。このことは、
よく頭に入れて指導して頂きた
いと思ひます。